

令和8年第1回定例会(令和8年3月25日)

予算決算特別委員会委員長 (森山 義治 委員長)

予算決算特別委員会は、去る3月4日の本会議において、付託を受けました『議第7号 令和8年度別府市一般会計予算』など予算議案9件及び、『議第16号 別府市職員の給与に関する条例の一部改正について』など条例議案5件の計14議案について、3月11日から13日の3日間にわたり委員会を開会し、会派代表者質疑及び個人質疑において、慎重な審査を行いましたので、当委員会での意見と審査結果について、ご報告をいたします。

令和8年度の一般会計当初予算については、

鉄輪みらい創生事業、消防車両購入事業などの増加がありましたが、図書館等一体的整備事業、市民ホール整備事業、総合体育館改修事業などの減少により、対前年度比の増減率は、2.1%減の644億3千万円となっております。

また、特別会計予算では、後期高齢者医療や地方卸売市場事業などの増額により、前年度比0.3%増加し、299億5千4百万円となっております。

一方、公営企業会計の予算規模については、

水道事業会計は、耐震化事業を含む配水管整備事業等の増額により、対前年比4億5千646万円増の38億6千594万3千円、

公共下水道事業会計は、処理場整備事業(中央浄化センター機械等更新事業)の減額により、対前年比5億6千642万8千円減の32億8千526万1千円、

競輪事業会計は、開催関係および競輪投票ポータルサイト関係経費等の増額により、対前年比26億7千385万3千円増の376億1千759万7千円となっております。

はじめに、『議第7号 令和8年度別府市一般会計予算』についてです。

本市の令和4年度以降の財政状況を見ると、地方債残高は年々増加し、一方で基金残高は減少しています。地方債残高や基金残高と密接な関係にある実質公債費比率、将来負担比率について、共に良好な数値を維持しているとの認識のようですが、現在の良好な指標は過去の蓄積の結果であり、現在の状況には強い危機感を持つ必要があると考えます。

複雑化、多様化する行政需要に対し、真に必要な施策への選択と集中による徹底した管理を行い、将来世代に過度な負担を強いることがないように、持続可能な行政サービスを確保することを求めます。

予算編成を行ううえで、限られた財源の中、市民需要に応じるために慎重な編成作業を経て予算化していると推察しますが、別府市の単費だけでは執行困難な事業が

ある場合においては、地方債残高の推移について、健全化判断比率等に留意し、計画的に運営していただくよう願います。

まず、歳入予算についてです。

主要な自主財源である市税については、給与所得の増による個人市民税の増加や市内法人数の増に伴う法人市民税の増加などにより、全体で前年度比3.2%、約5億1千万円の増収であるとの説明がありました。

今後の予測困難な社会情勢の変化や、増大する社会保障費、また公共施設の老朽化対策に備える必要性など、コロナ禍後の税収増継続に甘んじることなく、財政調整基金をはじめとする基金残高を適正な水準で確保し、健全で規律ある財政運営に努めるよう求めます。

続いて、歳出予算における個別事業についてです。

デジタル・ガバメント推進に要する経費では、デジタル・ガバメント推進計画に基づき、業務量の削減と適正な職員配置を図り、組織全体の生産性向上につなげていきたいと説明がありました。DXの推進については、単なるシステムの電子化にとどまらず、業務効率化や市民サービスの向上につながるよう、また、将来的な職員の適正配置や中長期的な人件費の抑制にどのような効果をもたらすのか、明確なロードマップと数値目標を示すよう要望します。

児童健全育成に要する経費では、夏休みの児童クラブ運営事業について、市民アンケートの結果に基づき設置する夏休みの児童クラブについて、夏休みに子どもの居場所を確保するため、児童クラブを開設することは望ましいことであるが、慣れない環境で過ごす子どものストレス軽減対策について十分配慮すること、委託する民間事業者と連携をとりながら、保護者の声に耳を傾け事業を進めていただくことを要望します。

また、母子健康相談・教育に要する経費のうち、別府ウェルネス産後ケア事業では、出産後に悩みを抱える母親が気軽に相談でき、継続してケアを受けることができる支援体制の維持を求めます。

温泉維持補修に要する経費のうち、新湯治・ウェルネス推進事業について、拠点施設に給湯する温泉のインフラ整備の一つとして「新湯治・ウェルネス給湯施設等基本計画」を策定することについては、拠点施設で使用する温泉の確保は、本事業の屋台骨となる重要案件であることから、計画策定にあたっては、具体策が決まり次第速やかに議会に報告するよう要望します。

図書館等複合施設管理運営に要する経費では、全体事業費約51億2千万円の財源について、国庫支出金約11億6千万円、地方債約32億1千万円、基金約6億7千万円、一般財源約8千万円で、市の実質負担額は約21億1千万円であることの説明がありました。

多額の初期投資となる建設費に加え、開館後の維持管理費や運営費といったラン

ニングコストについて、将来にわたる本市の財政負担を的確に見据え、施設の長寿命化や効率的な運営手法の検討など、持続可能な施設管理を強く求めます。

次に、「議第13号 令和8年度別府市水道事業会計予算」及び「議第14号 令和8年度別府市公共下水道事業会計予算」の主要な建設改良事業については、水道事業では「安全で安心できる水の安定供給に向けた取り組み」、公共下水道事業では「生活排水の適切な処理による水環境保全に向けた取り組み」を推進する予算編成を行った旨の説明がありました。

市民の命と生活を支えるライフラインである上下水道設備は、いつ起こるか分からない大規模災害に備え、耐震化を早急に推し進めるよう強く要望するとともに、事業の推進にあたっては、適正な基金管理のもと、将来世代に過度な負担を残すことのないよう、計画的かつ着実に実行していくことを求めます。

続いて「議第15号 別府市競輪事業会計予算」についてですが、競輪投票ポータルサイトの運用にあたり、基本的な運用は公営事業局で行うが、専門的な分野に関わる運用については委託する旨の説明がありました。

本市の貴重な自主財源である競輪事業において、新たなポータルサイトの構築費用および今後のシステム維持管理費の動向について、多額のシステム投資を行う以上、それが車券売り上げの増加や新規ファンの獲得に結び付き、費用対効果が最大限発揮できるよう戦略的なプロモーションの継続を求めます。

以上、14件の議案に対し、委員の様々な意見・要望が出された次第です。

採決におきましては、

「議第7号 令和8年度別府市一般会計予算」、

「議第8号 令和8年度別府市国民健康保険事業特別会計予算」、

「議第11号 令和8年度別府市介護保険事業特別会計予算」、

「議第12号 令和8年度別府市後期高齢者医療特別会計予算」、

「議第23号 別府市国民健康保険税条例の一部改正について」

の5件については、一部の委員から反対する旨の意思表示がありましたが、賛成多数で、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。

また、

「議第9号」および「議第10号」、

「議第13号」から「議第15号」までの5件の予算議案、

「議第16号」「議第17号」「議第19号」および「議第28号」の

4件の条例議案をあわせた9議案につきましては、全員異義なく原案のとおり可決すべきものと決定した次第であります。

最後に、令和8年度予算は、市政運営方針である「誰一人取り残さず、みんなに光が当たる、きめ細かな」予算編成であると認識しています。

特に、「新湯治・ウェルネスの推進」事業については、100年先を見据えた、新たな挑戦の年と位置付け、「市民が幸せを実感できる」「持続可能でウェルビーイングなまち」の実現に向け、市民にもその効果が分かるよう、引き続き丁寧な説明に努めることを要望します。

以上で、当委員会に付託を受けました議案14件に対する意見と審査結果の報告を終わります。

何とぞ、議員各位のご賛同をお願いいたします。